

華道

松口月城

華道親しみ来る
瓶器の前

此の時無我正に仙の如し

春花秋草四時の趣

盤上移し看る大自然

【作者】松口月城（一八八七〜一九八一年）（明治二十年〜昭和五十六年）・松口栄太・雅号月城、福岡県那珂川町今光に生まれ・満九十四歳で逝去した。開業医として医業に精進し、地域医療に貢献した。月城は医療の傍ら、漢詩、書道、南画など多彩な才能を発揮した。特に吟詠漢詩家としては、我が国の至宝であり、生涯で一万数千首にも及ぶ漢詩を作り、多くの人々の心に感銘を与えた。

【語釈】*瓶器…花器のこと。 *無我…われを忘れてすること

【通釈】わが国古来の華道に精進して花器の前に座れば、俗世を離れて仙人の境地そのままである。

四季折々の趣があつて、正に大自然を水盤上に移してみる如くである。

【鑑賞】この詩は力まず静かな調子で、すがすがしく吟ずる。